

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣西高等学校 学校番号 24

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠一貫」の校訓のもと、人間尊重の基盤に立ち、知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざし、自己に対して至誠を貫き自主・自律の精神と創造性に富む資質の啓発を期する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (G P) ○知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、心豊かな情操と道徳的实践力を持つ生徒 ○何事にも自主的・自律的に取り組む姿勢と創造性に富む資質を身に付けた生徒 ○地元地域を愛し、仲間とともに将来の地域社会へ貢献していく生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (C P) ○基礎基本を重視した学習指導や探究活動を通じた学力の向上 ○学校行事や部活動等を通して生徒相互が切磋琢磨し、主体的に学び考える能力の育成 ○単位制の利点を生かして多くの選択科目を展開し、生徒一人一人が個性の伸長を図りながら自己の進路を実現	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (A P) ○義務教育段階の基礎的な能力を身に付け、さらに高い能力を目指し自分を向上させたい生徒 ○進学を志し、自分に合った選択科目を主体的に学習して自らの可能性へ挑戦する生徒 ○生徒会活動や部活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校生活や地域社会を築いていこうとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
4 現状の分析	○「毎日楽しく学校へ通っている」は84%であり多くの生徒が高校生活を順調に送っていると思われる。 ▲「ICTを活用した学習指導等が学習の理解につながっている」にあてはまらないが22%であり、ICT機器の活用等を通して、生徒が理解できたと感じる授業を展開することが必要である。	
5 学校の抱える課題	◇本校の新しい教育課程が生徒の能力を伸ばすことにつながっているか検証することが必要である。また、観点別学習状況評価の検証も必要である。 ◇ICT機器の活用等を通じた授業実践が必要である。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・令和4年入学生から実施している教育課程の検証 ・ICT機器の活用等を通じた生徒の理解を促す授業の研究	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 委員会や教科会での教育課程の検証 (2) ICT機器の活用した分かりやすい授業の展開	(1) 委員会等で課題の有無について検証をする。 (2) 授業研究会により実践方法を共有する。生徒による授業アンケート等で振り返りをする。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・令和4年度末に1年次の教育課程の検証を教科会にて全職員で実施した。 ・1年次から3年次までの教育課程の課題について、教科会や委員会にて検証した。 ・ICT教育推進部と連携して過度な業務負担にならないよう、研究授業や研究会を実施した。	①生徒を伸ばす教育課程の編成に努めているか。 ②授業改善のための研修と実践に努め、成果と課題を把握しているか。	A (B) C D A (B) C D
12 成果 課題	○教育課程を検証する中で、本校が西濃地区の普通科高校として何が必要であるかを議論することができた。生徒をより伸ばすことができる教育課程の案を検討しているところである。 ・○ICT機器の活用した授業展開と研究会を重ねることで、指導方法について交流することができた。授業アンケートや様々な場面でICTの活用できた。 ▲観点別学習状況評価の方法や生徒への還元について検証する必要がある。特に主体的に取り組む態度についての評価方法について検証する必要がある。	
13 来年度に向けての改善方策案	総合評価 A (B) C D	
・教育課程の課題があるか、教科会、学年会、教育課程委員会等にて意見を収集して検討し、令和7年度入学生の教育課程については令和6年5月を目途に作成する。 ・観点別学習状況評価についての評価方法について、教科会、教育課程委員会等にて検証する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】

- ・「毎日楽しく学校へ通っている」が84%であり、教職員・生徒・保護者の連携、意思疎通ができています。
- ・今後も、さらによりよい教育課程に向けて検討を続けてもらいたい。
- ・ICT機器が授業等で活用されているが、家庭学習など校外での活用方法についても、さらに研究してほしい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣西高等学校 学校番号 24

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠一貫」の校訓のもと、人間尊重の基盤に立ち、知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざし、自己に対して至誠を貫き自主・自律の精神と創造性に富む資質の啓発を期する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ○知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、心豊かな情操と道徳的実践力を持つ生徒 ○何事にも自主的・自律的に取り組む姿勢と創造性に富む資質を身に付けた生徒 ○地元地域を愛し、仲間とともに将来の地域社会へ貢献していく生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ○基礎基本を重視した学習指導や探究活動を通じた学力の向上 ○学校行事や部活動等を通して生徒相互が切磋琢磨し、主体的に学び考える能力の育成 ○単位制の利点を生かして多くの選択科目を展開し、生徒一人一人が個性の伸長を図りながら自己の進路を実現	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ○義務教育段階の基礎的な能力を身に付け、さらに高い能力を目指し自分を向上させたい生徒 ○進学を志し、自分に合った選択科目を主体的に学習して自らの可能性へ挑戦する生徒 ○生徒会活動や部活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校生活や地域社会を築いていこうとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状の分析	○多様な入試制度や進路意識に対応しつつ、希望に沿った進路指導ができています。 ○「キャリア探究」の時間が多くの生徒にとって意義あるものとなっている(学校アンケート 生徒の84.3%が肯定的)。 ▲幅広い視野をもって早期からキャリアを考える生徒が少ない。	
5 学校の抱える課題	◇主体的な学び、主体的な進路選択 ◇多様な入試やニーズに合わせた進路指導と働き方改革との両立	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・「キャリア探究」の西高モデルの作成 ・自己の可能性や幅広い選択肢に気付ける進路支援 ・多様な入試生徒に対応した進路支援	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「キャリア探究」の内容について進路指導部、「総合的な探究の時間」検討委員会で検討する。 (2) 各種ガイダンス、インターンシップなどを実施し、進路意識を高めさせる。 (3) 小論文・面接指導を充実させる。	(1) 生徒の自己評価、教員評価および探究担当教員(1, 2年正副担任)へのアンケート (2) 「キャリアパスポート」の記入内容や生徒アンケートによる評価 (3) 小論文・面接試験のある入試方式の合格状況	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・「キャリア探究」のワークシート作成、授業内容を複数教員で検討する。 ・学部学科ガイダンス、大学別ガイダンス、医療系ガイダンス、インターンシップ(4カ所)などの実施。 ・外部講師による小論文・面接指導、難関大志望者対象の小論文講座(4回)実施。	①次年度以降も使用できる教材となっているか。生徒の考えが深まりやすいものか。 ②ガイダンスや行事を通して、生徒のキャリア意識に変化があったか ③各種講座により生徒の表現力が高まったか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果 ○「キャリア探究」のおおよその流れが出来てきている。進路指導部として相談・検討しながら進められた。 ○ガイダンス参加生徒の感想では「視野が広がった」等の意見が多数あった。 ・小論文・面接講座は効果が見られる。国語の成績が伸びた生徒も見られた。 ▲希望者ガイダンスに参加する生徒をもっと増やす。 ▲探究活動の一層の充実。外部(企業・大学など)との連携ができるとよい。	総合評価 A (B) C D	
13 来年度に向けての改善方策案 ・ガイダンスの内容・時期を検討し、参加募集案内の方法にteamsを活用する。 ・探究活動支援をしている大学に協力を依頼する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・探究活動はとてもよい経験、学びであり、進路選択・職業選択に繋がる活動でもあるため、今後も継続してもらいたい。 ・探究活動でまとめた提言やポスターなどを外部に発信できるとよい。
--

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣西高等学校 学校番号 24

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠一貫」の校訓のもと、人間尊重の基盤に立ち、知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざし、自己に対して至誠を貫き自主・自律の精神と創造性に富む資質の啓発を期する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、心豊かな情操と道徳的実践力を持つ生徒 ○何事にも自主的・自律的に取り組む姿勢と創造性に富む資質を身に付けた生徒 ○地元地域を愛し、仲間とともに将来の地域社会へ貢献していく生徒	○基礎基本を重視した学習指導や探究活動を通じた学力の向上 ○学校行事や部活動等を通して生徒相互が切磋琢磨し、主体的に学び考える能力の育成 ○単位制の利点を生かして多くの選択科目を展開し、生徒一人一人が個性の伸長を図りながら自己の進路を実現	○義務教育段階の基礎的な能力を身に付け、さらに高い能力を目指し自分を向上させたい生徒 ○進学を志し、自分に合った選択科目を主体的に学習して自らの可能性へ挑戦する生徒 ○生徒会活動や部活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校生活や地域社会を築いていこうとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）	
4 現状の分析	○昨年度のアンケートで「高校生としてのマナーや規範意識を身に付けさせるための指導を行っている」の項目における肯定的評価は、保護者が89%、生徒は88%であった。 ○昨年度のアンケートで教育相談項目の肯定的評価は、保護者が92%、生徒は80%であった。 ▲交通事故の件数が多い。（昨年度19件） ▲ネット依存の傾向にある生徒が増えている。	
5 学校の抱える課題	◇登下校時の交通事故 ◇インターネットの適切な利用	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・積極的な生徒指導の充実 ・基本的生活習慣の確立 ・自己指導能力の育成 ・教育相談活動の推進	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) いじめに関するアンケートや心のアンケートの実施。 (2) 身だしなみ指導や校門や学校周辺での登校指導。 (3) 情報モラル講話、交通安全講話、人権講話の実施。交通安全を呼びかける定期的な活動。 (4) SC活用事業、スペシャルサポート活用事業等の実施。	(1) いじめ、問題行動の早期発見と組織的対応。 (2) 指導が必要な生徒への適切な働きかけ。自らを律する力や規範意識の醸成。 (3) 社会の一員としての自覚と責任の理解。 (4) 生徒及びその保護者が利用できる相談窓口の設置と案内。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①いじめに関するアンケートや心のアンケートの実施し、その結果を職員間で情報共有し組織的に対応する。 ②身だしなみ指導については、校則に基づいて実施し、学年団を中心として複数人の体制で指導に当たる。 ③講話や呼びかけなどを通して規範意識を身につける。 ④悩みを抱える生徒及びその保護者へのカウンセリングを適切に実施する。	①迅速に対応し、組織的な取り組みになっていたか。 ②個人・クラス・学年が落ち着いた学校生活を送れているか。 ③交通事故の増減、迷惑行為の増減。 ④SC活用事業、スペシャルサポート活用事業等の利用状況。	A B C D A B C D A B C D A B C D
12 成果 課題	○いじめや問題行動等の発生時において、迅速に対応し組織的に取り組めた。 ○今年度のアンケートでは「高校生としてのマナーや規範意識を身に付けさせるための指導を行っている」の項目における肯定的評価が、保護者が96%、生徒は94%であった。 ・ ○今年度のアンケートでは教育相談項目の肯定的評価が、保護者が91%、生徒は93%であった。 ○▲登下校時の交通事故の件数は減少（昨年度19件→今年度13件）しているが依然として多い。 ▲情報モラルに関する調査の結果、インターネットに夢中になっていると回答した生徒が半数近くいた。	
13 来年度に向けての改善方策案	・交通安全に対する意識の高めるため、生活委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。 ・インターネット等の使用時間については、生徒会や家庭と協力しながら、継続的な指導を実施していく。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】
・どの生徒もしっかりとした挨拶ができ、基本的生活習慣が身に付いている。 ・ヘルメット着用は努力義務ではあるが、安全面から着用する生徒を増やしてほしい。 ・交通事故を減らすようさらに指導してもらいたい。また、危険個所へのカーブミラー設置の要望等には地域としても協力していきたい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣西高等学校 学校番号 24

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠一貫」の校訓のもと、人間尊重の基盤に立ち、知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざし、自己に対して至誠を貫き自主・自律の精神と創造性に富む資質の啓発を期する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 『卒業生像』 ○知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、心豊かな情操と道徳的实践力を持つ生徒 ○何事にも自主的・自律的に取り組む姿勢と創造性に富む資質を身に付けた生徒 ○地元地域を愛し、仲間とともに将来の地域社会へ貢献していく生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (C P) ○基礎基本を重視した学習指導や探究活動を通じた学力の向上 ○学校行事や部活動等を通して生徒相互が切磋琢磨し、主体的に学び考える能力の育成 ○単位制の利点を生かして多くの選択科目を展開し、生徒一人一人が個性の伸長を図りながら自己の進路を実現	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (A P) ○義務教育段階の基礎的な能力を身に付け、さらに高い能力を目指し自分を向上させたい生徒 ○進学を志し、自分に合った選択科目を主体的に学習して自らの可能性へ挑戦する生徒 ○生徒会活動や部活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校生活や地域社会を築いていこうとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇特別活動	
4 現状の分析	○学校行事やボランティア活動においては、コロナによる制限がほぼなくなり、以前のような活気ある取り組みが増えたことが生徒の高評価につながった。 ▲ボランティア活動に関しては、生徒の評価と比較すると保護者の満足度が低い状況にある。回答理由に「わからない」を選択する率が高いことから、保護者や外部に向けての効果的な発信を高めていく必要がある。	
5 学校の抱える課題	◇自分に自信がもてず、一步を踏み出すことに躊躇する生徒が多い。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・学校行事の成功に向けた生徒の自発的・自治的な活動の展開による自己肯定感の養成。 ・部活動を通じた責任感と連帯感の養成。 ・校内外での福祉活動に積極的参加による思いやりの心とボランティア精神の育成。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒会活動・福祉活動・部活動に対する効果的な支援 (2) コロナ後の学校行事の内容・運営方法の再検討	(1) 部活動の成果や生徒の活動状況 (2) 全校生徒や職員のアンケート結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・部活動への支援 ・生徒の学校行事に対する自主的な姿勢 ・生徒の活動を支援する体制づくり	① 活動を支援できたか ② 自主的な姿勢が見られたか ③ 組織的な支援体制ができたか	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
12 成果 課題	○文化祭や球技大会等の学校行事においては、コロナ後の新たな状況の中で、フォームズを使って生徒個々の意見を吸い上げ、生徒会で精査・検討を重ねることで生徒主体の活動が展開でき、生徒評価度も96.6%へと6ポイント上昇した。 ○ボランティア活動においては、岐阜駅前や校内での募金活動の展開、ペットボトルキャップや書き損じハガキの回収、大垣市主催の様々なボランティア活動への積極的参加等を展開したことで生徒評価度が82.4%と7ポイント上昇した。 ▲生徒会主催の様々な校内外ボランティア活動の展開、各クラスへの校外ボランティア活動の案内や参加者による報告書の通知等、大幅にその機会を増やしたが、一般生徒による参加者を増やすことができなかった。	
13 来年度に向けての改善方策案	・文化祭や球技大会等の学校行事については、生徒個々の自己肯定感を高める機会となるよう、生徒の意見を取り入れつつ積極的に工夫改善を図っていく。 ・ボランティア活動の一部として、学校周りの清掃活動等を展開することで地域貢献を図っていく。生徒会執行部の生徒だけでなく、部活動や全校生徒への呼びかけを展開することでボランティア精神を高めるきっかけとする。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】
・地域との連携について、子ども園訪問は今後も継続していきたい。
・学校と地域が協力し、ゴミが多い場所での清掃ボランティアなどに取り組んでいきたい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣西高等学校 学校番号 24

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠一貫」の校訓のもと、人間尊重の基盤に立ち、知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざし、自己に対して至誠を貫き自主・自律の精神と創造性に富む資質の啓発を期する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、心豊かな情操と道徳的实践力を持つ生徒 ○何事にも自主的・自律的に取り組む姿勢と創造性に富む資質を身に付けた生徒 ○地元地域を愛し、仲間とともに将来の地域社会へ貢献していく生徒	○基礎基本を重視した学習指導や探究活動を通じた学力の向上 ○学校行事や部活動等を通して生徒相互が切磋琢磨し、主体的に学び考える能力の育成 ○単位制の利点を生かして多くの選択科目を展開し、生徒一人一人が個性の伸長を図りながら自己の進路を実現	○義務教育段階の基礎的な能力を身に付け、さらに高い能力を目指し自分を向上させたい生徒 ○進学を志し、自分に合った選択科目を主体的に学習して自らの可能性へ挑戦する生徒 ○生徒会活動や部活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校生活や地域社会を築いていこうとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇保護者や地域住民との連携	
4 現状の分析	○育友会との連携協力は、会員から好評価を得ている。 ▲HPや育友会だよりによる広報活動についてさらに力を入れたい。	
5 学校の抱える課題	◇本校の教育目標を効果的に達成するために、学校と家庭の意思疎通を促進し、緊密な協力関係を構築する。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育目標を効果的に達成するために、学校と家庭との意思の疎通を促進し、緊密な協力関係を構築する。育友会役員会や常任委員会活動を通じ、本校の教育活動に対する保護者の理解と協力を得られるよう各種事業を企画・運営していく。 本校や本校の行事等を生徒や保護者をはじめ地域社会等に紹介する広報活動を展開し、本校の教育活動に対する理解を深めていく。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 育友会会員との情報交換	(1) 行事への参加者数	
(2) 学校HPの速やかな更新	(2) 学校HPの更新回数及び閲覧回数	
(3) 大垣西高緊急メールの配信	(3) 保護者からの評価等	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 役員会や学校行事・講演会等の機会を利用して様々な情報交換を行う。 学校HPを定期的かつ速やかに更新する。 緊急メールは臨時配信及び行事の配信（高p連全国大会等のWEB視聴案内）をする。 	①相互理解を深められたか。 ②定期的更新により最新情報を提供できたか。 ③配信が確実にできたか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
12 成果課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○5月以降コロナの影響が薄れ、以前のような育友会活動を再開できつつある。「大学見学会」「芸術鑑賞会」が実施でき、その他の育友会行事も旧に復してきている。「芸術鑑賞会」は生徒の活躍場所か設定できた。 ○「育友会総会」のFormsを利用した実施など、新しい試みが生まれている。 ▲「文化祭支援」(バザーなど)・「全国大会参加」ほかについては来年度の課題である。 	A (B) C D	
13 来年度に向けての改善方策案		
① 育友会総会については、Formsを利用して実施する。「授業参観」も行いたい。 ② 大学見学会は6月実施。参加者数確保のため生徒進学の多い大学を選定する。 ③ 様々な学校行事を貴重な機会として、保護者への積極的参加を促し有効な情報交換を行う。 ④ HPの適切な管理や緊急メールを利用した情報の発信を今後も持続的に行う。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】

- 一斉メールが活用されており、学校からの連絡が事前にきちんと周知されている。
- ホームページへの学校行事の掲載がさらに充実するとよい。